

# 中村かずひこ通信



【発行】中村かずひこ未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285 vol.28  
ホームページ <http://www.nakamurakazuhiko.com> e-mail [tonpei@i-berry.ne.jp](mailto:tonpei@i-berry.ne.jp)

## 一般質問が実現します！

### その1 『自治基本条例』制定へ検討組織を発足

真岡市では“自治体の憲法”とも言われる『自治基本条例』の制定に向けて、平成22年度から検討組織を発足させます。現時点の計画では、公募の市民をはじめ15名程度のメンバーで2年間かけて議論し、平成24年度中の制定を目指しています。

### その2 『ふれあい地域づくり事業』に「新メニュー」ごみ減量推進事業

各地域で住民自らが主体となって、地域の安全や子ども達の健全育成、高齢者福祉などに取り組む『ふれあい地域づくり事業』の中に、ごみ減量推進事業が平成22年度から新たにメニュー化されることになりました。各地域が行う座談会・研修会、広報紙の発行、ごみ処理施設などの見学、ごみの成分の実態調査などに活用できます。

※実現に向けてご尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

市民と市政のかけ橋になりたい！  
☆お気軽にお声をかけて下さい。  
お友達との井戸端会議、勉強会等。2〜3人でも結構です。どんなにお伺いいたします。  
☆あなたのアイデアを市政にいかしたい！  
お気づきの点がございましたら、どんな小さなことでも結構です。ぜひご意見を！

## 2月定例議会・一般質問



2月定例議会の質疑・一般質問が、3月2日(火)、3日(水)、4日(木)の3日間にわたって行われました。

今回、中村は3日の5人目として登壇。計3件の一般質問を行いました。

### 予算審査特別委員会

また、中村は3月16日(火)に行われた『予算審査特別委員会』でも下記の7項目について質疑を行い、執行部の考えをたどりました。

- 1. 『ふれあい地域づくり事業費』について
- 2. 『自己啓発支援・各種研修費』について
- 3. 『とちぎの元気な森づくり事業費』について
- 4. 『ごみ減量化推進事業費』について
- 5. 『雇用支援対策費』について
- 6. 『道路新設改良費』について
- 7. 『市営住宅管理費』について

### 中村が行った一般質問の内容

1. 市民と行政の協働によるまちづくりについて
  - (1)自治基本条例について
  - (2)行政評価における外部評価について
  - (3)NPO・ボランティアの活動支援について
  - (4)『(仮称)まちづくり塾』の創設について
  - (5)市職員のスキルアップについて
2. 子育て支援策について
  - (1)待機児童に対する取り組みについて
  - (2)子育て支援センターの日曜開園について
3. 環境政策について
  - (1)ごみ減量化の取り組みについて
  - (2)新年度の『ふれあい地域づくり事業』について
  - (3)環境自治体スタンダード『LAS-E』について

「見逃した！」という方に  
バックナンバーをお送りします  
これまで「未来をつくる会」では、毎回定例会議終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1〜27号までを見逃された方は、お気軽にこちらからお送りさせていただきます。

## 真岡市 平成22年度 当初予算が決定

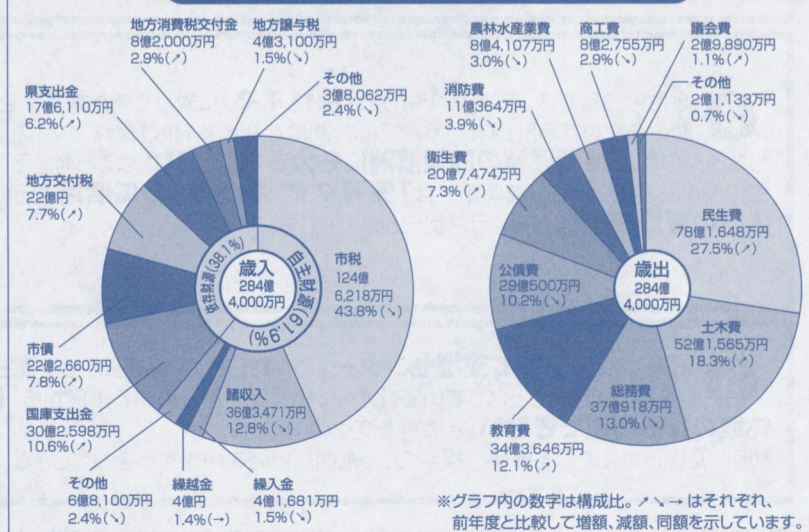
総額は 477億3,643万7千円 (前年比 9億6,762万円増)

### 平成22年度 会計別予算額

会計名	当初予算額
一般会計	284億4,000万円
国民健康保険	83億3,344万4千円
後期高齢者医療	5億9,102万4千円
老人保険	142万5千円
介護保険(保険事業勘定)	40億1,282万5千円
介護保険(介護サービス事業勘定)	1,164万9千円
インナーチェンジ周辺開発事業	12億3,594万7千円
公共下水道事業	22億3,634万3千円
農業集落排水事業	4億7,277万8千円
簡易水道事業	6,087万8千円
久下田北部土地区画整理事業	廃止
計	169億5,631万3千円
水道事業会計	23億4,012万4千円
合計	477億3,643万7千円

How much? 真岡市の市債償還予定額 (今後、市が返さなくてはならない借金)  
一般・特別・水道事業・清掃事務組合+利子含む (平成20年度末現在) 総額 603億5,633万6千円

### 一般会計(284億円4,000万円の内訳)



※グラフ内の数字は構成比。↗↘はそれぞれ、前年度と比較して増額、減額、同額を示しています。

次回発行予定日  
7月18日(日)  
発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。





質問:中村かずひこ

# 中村かずひこ議会レポート

## 2月定例議会 一般質問

答弁者: 井田 隆一 市長  
内田 龍雄 副市長  
中村 勝博 健康福祉部長

### 1. 市民と行政の協働によるまちづくり について



**質問** 真岡市では『自治基本条例』を平成24年度中に制定することを目指して、今後2年間かけて議論を進めていくことになった。宇都宮市の場合、一般公募の市民など約50名が参加し、2年間で20回を超える会議が開かれた。真岡市においては**どのような形で2年間議論をしていくのか。**

**答弁** 『自治基本条例』の**検討組織**は、平成22年度の早い時期に立ち上げたい。メンバーは公募の市民を含めて、各界各層から**15名程度の委員**で構成し、**年5回程度の会議**を開催する予定である。また『自治基本条例』の制定は市民の意識が重要なので、委員の人数や会議の回数を増加したり、それとは別に『市民フォーラム』を開催したりするなど柔軟に対応していきたい。

**質問** 真岡市が行ってきた**行政評価**について、より客観性を高めるために**市民や有識者による外部評価**を導入すべきであると、これまで度々提案してきた。執行部の判断により**平成22年度から実施**されることになったが、外部評価の手法は様々なものがある。真岡市では**どのような手法**で行う考えなのか。

**答弁** 行政評価における外部評価の手法については現在検討中である。ただし現時点では、これまで**市職員が行ってきた行政評価を1次評価**と位置づけ、**市民の代表者25名程度の方々に2次評価**として意見交換を行っていただく方法を考えている。なお、平成22年度は初年度であることから、**会議は試行的に2回程度**行っていきたい。

**質問** 一昨年の7月、当時の総務常任委員会で行政視察に赴いた愛知県豊川市では、**ボランティア活動に関する保険料を市が負担**する制度を立ち上げ、市民から高い評価を得ていた。真岡市ではこうした制度は**未整備**であるが、栃木県内を見ても宇都宮市と小山市ですでに実施されている。市民がより安心してボランティア活動が行えるよう、市が保険料を負担する制度を**検討してはどうか。**

**答弁** 現在真岡市では、全国市長会の市民総合賠償保険に加入し、市の主催・共催によるイベント現在の方法でトなどでのボランティア活動に対して補償をしている。しかし、市が関係しない独自のボランティア活動については対象外となっている。真岡市においても、市民活動が安心して行われるよう、**ボランティア活動に関する保険制度の導入を検討していく。**

**質問** 昨年8月『もおか市民討議会2009』が行われ、無作為抽出で選ばれた市民が、地域の課題について活発な議論を行った。今後、**住民参加・協働**の取り組みをもう1段階進化させるためには、**市民と行政が同じテーブルで議論する場**が必要だと考える。かつて行政視察に赴いた福井県大野市では、地域の課題を市民と行政と一緒に学習し、話し合い、実践活動を行う取り組みをしていたが、真岡市でもそれらを参考に『(仮称)まちづくり塾』を開設することはできないものか。

**答弁** 真岡市が行っている協働の取り組みには、**市民と行政と一緒に**なって地域の課題について学び、話し合い、提言を行うような事業はない。しかし、これまでに『市民活動推進センター』の整備、『もおか出前講座』の創設などに取り組んできた。今後も『行政評価における外部評価』の導入や『自治基本条例』の制定を計画しており、**これまで以上に市民の声を政策に反映できる仕組みを整備**していきたいと考えている。

**質問** **協働のまちづくり**を進めていくためには、市民と並んで協働の担い手である**行政側の能力向上も不可欠**である。平成20年12月定例議会ですでに『二宮町との合併を機に、**人材育成基本方針の見直し**を行う』と答弁していたが、今後どのように**市職員の研修制度を充実**させる考えなのか。

**答弁** 現在真岡市では、**人材育成を主眼とした人事評価制度を実施**している。これは、職員自らが年度当初に目標を設定し、自己評価と上司による評価を行い、その後上司との面談を通じて人材育成を図るものである。今後の**研修制度**は、この**人事評価制度との整合性を図り**ながら時代に即応したものに改めていきたいと考えている。例えば、市単独で実施している『階層別通信教育講座』について、**平成22年度からは課長補佐昇任者まで対象を広げる**(今までは、課長・係長昇任者のみ)計画である。

**質問** 行政の能力向上のためには、様々な経験や専門知識のある多様な人材の確保に努めるべきと考える。**千葉県松戸市**が平成15年度に、全国で初めて**職員採用試験の年齢制限を撤廃**したことを皮切りに、**全国各地で同様の取り組み**が見られるようになった。真岡市としても、職員採用の年齢制限を見直すなどしながら、より広く門戸を開放してはどうか。

**答弁** 一般職の職員採用は、将来の部長・課長などの管理職を担うことを想定しており、若い世代から実務経験を積むべきであると考えている。しかし一方で、民間の業務を経験した有能な人材を確保することも必要なことである。そのため、**今年度から新規採用職員の年齢制限を27歳から2歳引き上げた**ところである。したがって、**当分の間は29歳を制限とする現在の方法で職員採用**を行いたい。

### 2. 子育て支援策 について



**質問** **保育所に対するニーズ**が年々高まる中、真岡市では平成20年度に第5の民間保育所を整備し、待機児童の問題解消に向けて対策が講じられてきた。現在真岡市の**待機児童は5名**。しかし、母親が求職中であるなど**定義上は待機児童に見なされないものを含めると、保育所への入所希望者は約60名**に及ぶ。今後、問題解決に向けて市はどのように取り組むのか。

**答弁** 真岡市では保育需要に対応するため、平成19年度に定員120名、21年度に定員90名の**民間保育所を開設**してきた。また『**幼稚園併設型民間育児サービス**』として、市独自に助成制度も設けている。国においても、保育所入所率の上限を緩和するなどの対策を講じている。市としても国の動向を見極めながら、**現在の施設で定員増を図るなどの対応**をしていく。

**質問** 厚生労働省では、平成22年度から『**保育ママ**』に対して新たな基準を定めて、補助金を交付する計画である。こうした制度を利用すれば『**保育ママ**』の活動支援はもろちんのこと、**待機児童の問題解消にも大きなプラス**になると考える。国の制度も変わる中で、真岡市では『**保育ママ**』を**どのように活用**するのか。また、**人材の育成・確保**はどのような状況か。

**答弁** **国の補助制度**については、国・県・市町村がそれぞれ3分の1ずつの負担で実施するものであるが、**栃木県では現在のところ対象事業として実施していない**。したがって、現在の『**保育ママ**』の制度を今後も継続していく。人材確保については、**市の広報紙などを通じて度々呼びかけ、20件程度の問い合わせ**があったが、新たな人材確保には至っていない。原因としては『**保育ママ**』の負担が大きいことが考えられるが、今後も制度のPRに努めて人材確保を図っていく。

**質問** 田町にある『**子育て支援センター**』の開館日時は、月曜日から土曜日(午前9時~午後5時)までとなっている。しかし、小さな子どもがいる市民から『**日曜日が休館のため利用できない**』との声を度々聞いてきた。利用したいと考えている市民の視点にたった開館日時を検討することはできないものか。

**答弁** 『**子育て支援センター**』は、子育てに関する相談や親子の交流事業などが主な目的であり、**現在の開館日時で役割は果たしている**と考えている。また、市内には**公園や日曜日に利用できる施設もある**ので『**子育て支援センター**』の**日曜日の開園は考えていない**。



### 3.環境政策 について



**質問** 真岡市では可燃ごみの約半分を占めるのが**雑紙(紙類)**であることに着目し、市の広報紙や出前講座を通じて、市民に雑紙の分別・リサイクルを呼びかけてきたが、ごみ減量化の取り組みはどこまで進んでいるのか。  
また、**ごみ減量化の目標数値**を見ると、家庭系・事業系ごみをともに**10%削減**としている(対平成19年度比)。雑紙の分別・リサイクルを徹底させることにより、ごみ減量化の目標数値をより高く設定することは可能ではないか。

**答弁** 今年度は、ごみ減量化に関する啓発活動として、**各地域での説明会を計38回開催**したほか、広報紙などによるPR、環境展などのイベント開催を行ってきた。ごみ減量化の現状は、**平成21年度(期間:4月~1月)の可燃ごみ**を、前年度の同期と比べると**約2.8%の削減**が図られている。  
また、目標数値については**まず10%削減の目標を達成**するために、市民に実践してもらうことが重要であると考えている。

**質問** これまで各地域で行う環境保護活動に対して、市が支援する制度の創設を度々提案してきた。そうした中、**平成22年度から『ふれあい地域づくり事業』に、ごみ減量推進事業**が新メニューとして加わるようになった点は高く評価したい。  
①各地域で行う**どのような取り組みが**、ごみ減量推進事業の交付金が受けられる対象となるのか。  
②今回の対象は、ごみ減量化の取り組みのみにとどまっているが、**自然景観の保全**などが除外された理由は。

**答弁** ①交付金の対象となるのは、ごみ減量化やリサイクルの意識を浸透させるための研修や地域内活動を支援するもので、具体的には**座談会・研修会**の開催経費、地域内の**広報紙**の作成費、清掃センターなどの**施設見学**に伴う費用、ごみの**成分**などの**実態調査**に伴う費用などが挙げられる。  
②各自治会とも、山林や河川などの環境は様々である。このため、**地域の独自性を活かした保全事業**を実施していただきたいので、『ふれあい地域づくり事業』の中の**特別認定事業**として支援していきたい。

**質問** 真岡市は、平成16年に『環境都市宣言』を行い、翌17年に『環境基本計画』を策定したが**市民と行政が一体となって目指す旗印**のようなものが**乏しい**。ISO14001の自治体版と言われる**環境自治体スタンダード『LAS-E』**を採用してはどうか。目標設定や審査の過程に市民が関われるため、環境問題に対する**市全体の盛り上がり**に大きく役立つと思われるが。

**答弁** 『環境基本計画』の中にある環境指標については、『**環境審議会**』において**調査・審議**を行っており、その結果については冊子『**真岡の環境**』を発行し、市民に公表している。また、現在進めている『**環境基本計画**』の**見直し**においても公募方式を取り入れ、**市民の中から策定委員**を選任している。したがって、今後も現在の手法を活用していくので『**LAS-E**』の採用は考えていない。

### 再質問・再々質問・要望



#### 『自治基本条例』について

**質問** 現時点での考えでは、各界各層の代表者15名程度の検討委員会を設けて、その後『市民フォーラム』などを柔軟に行うとのことであるが、それでは**今までの各種審議会と何も変わらない**ように思える。中核部分である**検討委員会**こそ、より**多くの市民に参加**してもらえよう、柔軟に対応すべきではないのか。

**答弁** 『自治基本条例』の制定には、多くの市民が関わるということが重要だと考えている。  
ただし、条例制定の**取りまとめを行う中核部分**は、ある程度**人数を絞って議論する必要がある**のではないかと考えている。

#### 要望

この『自治基本条例』は、新しい協働の姿を構築するために、新しいルールを市民と行政が一体となって作る、新しい取り組みである。ぜひとも、**従来の手法にこだわることなく、幅広い市民が参加できるような形**をとっていただきたい。

#### 行政評価における外部評価について

**質問** 外部評価は**25名程度の委員**によって行われるとのことであったが、**どのような人物がメンバー**になるのか。また、外部評価は行政内部での評価を受けての2次的評価という位置づけであるようだが、**市職員が要・不要・見直しと判断したものについて**、**外部評価で再度検証**できるのか。

**答弁** 外部評価の構成メンバーは、『**第10次市勢発展長期計画**』で原案策定に携わった**市民会議の委員**にお願いしたい。また、現在市職員が行っている行政評価は多岐にわたっており、**1次評価をした後に、市民からの評価を仰ぐのが望ましい**と考えている。

**質問** 現在、市職員が行っている行政評価の対象は**約800の事務事業**に及ぶ。**外部評価についても全てカバーして議論**することは可能なのか。

**答弁** 約800の事務事業全てについて外部評価を行うと、膨大な時間が必要となる。したがって、**ある程度内容を絞らざるを得ない**と考えている。どこまで外部評価を仰ぐのかについては、今後十分に検討したい。

#### 職員採用の年齢制限について

**質問** 全国で初めて職員採用の年齢制限を撤廃した**千葉県市川市**では、**以前就いていた仕事の内容に応じて職員の等級に差**をつけているようだが、そういうことは真岡市ではできないのか。

**答弁** これまでも『**前歴換算**(それ以前についていた職業・経歴に応じた等級換算)』は**行っている**。

#### 『子育て支援センター』の日曜日開園について

**質問** 子育てに関する相談などが主な目的であり、現在の開園日時で役割を果たしていることだが、**日曜日しか休みの取れない保護者の相談には応じない**ということか。

**答弁** 共働きの夫婦であっても、**2人とも日曜日しか休みが取れないとは考えにくい**。どちらか一方が開園日に相談に来ていただければと考えている。

#### 要望

**平成22年度から、真岡市役所の窓口が第1・第3日曜日に開設**することになった。そうしたことを考えれば、**子育て支援センターの日曜日開園も十分可能**ではないか。労働環境が厳しさを増す中で、十分な休暇を取れない市民も多い。利用したいと考えている市民の視点にたった開館日時を検討していただきたい。

#### ごみ減量化について

**質問** 未だに**ハッキリ見えない**のが、**ごみ減量化に対する執行部のスタンス**である。現在計画中的ごみ処理施設の処理能力は143t/日であるが、それに合う程度のごみ減量でいいと言葉の端々から受け取ってしまうのだが。

**答弁** ごみ処理施設の処理能力については、180t/日から143t/日に規模縮小を図ったが、その中でごみ減量化を推進しようと**1市4町で目標数値を決めた経緯**がある。  
市単独では、排出するごみの量が減れば経費負担も抑制できるので、さらなるごみ減量化を進めていく考えに変わりはない。

**質問** 家庭で**10%のごみを削減**するには、**市全体の2割の家庭だけで雑紙の分別**を行い、残りの家庭では一切協力しなくても**達成**できてしまう。目標としては余りに低いと感じるが。

**答弁** **減らせるものは減らしていきたい**という考えであるが、市民の協力が大切であるので十分に訴えていきたい。

#### 『ふれあい地域づくり事業』について

**質問** 自然景観の保全については『**ふれあい地域づくり事業**』の中の**特別認定事業**で行うとのことであった。しかし、特別認定事業において**環境系の取り組みは、ここ数年行われていない**。市民に分かりやすくするために、明確にメニュー化することが必要ではないか。

**答弁** **各地域に対して行う説明会**の中で、特別認定事業を活用して**環境問題に取り組んでもらえるようPR**をしていきたい。





# 報告します 眞政クラブ・公明 会派視察研修



**阿南市**  
(防災対策について)  
今後、東南海・南海地震が  
高い確率で発生すると言  
われる中、阿南市では市役  
所内に「市民安全局」を設  
置。自衛隊OBを有事全般  
のコーディネーターとして

招いている。

小中学校の耐震化対策の進捗状況や、地域単位での防  
災活動の手法については、今後真岡市でも参考になると思  
われた。



**小野市**  
(教育政策について)  
小野市では、東北大学教授  
の川島隆太氏を教育行政顧  
問として迎え入れ、脳科学の  
視点から子ども達の教育に力  
を注いでいる。

また、計算・漢字・体力の3分  
野で「おの検定」という独自のテストを実施し、子ども達の習熟度を  
高める工夫をしているのが大きな特徴。  
昨年7月に文教常任委員会で視察した山口県山陽小野田市の取  
り組みと類似している点が多々あり、大変興味深く説明を聞いた。

今回の視察では、下記の金額が公費でまかな  
われました。(3日間:議員1人あたり)

※当然のことですが、視察中の飲食代は、全て議員の個人負担です。

総額	75,330円	出所	政務調査費
内訳	交通費、宿泊費、相手先みやげ代		

なお、視察の詳しい所見につ  
いては、中村のホームページに  
掲載予定です。

皆様、ぜひお越し下さい!

第6回

## 中村かずひこ 市政報告会

日時  
5月25日(火) PM7:00~

会場  
大谷公民館(高岡酒店西側)



昨年行われた市政報告会の模様

### コラム むーむあっび

2月定例議会の最終日である3月18日(木)。「真岡市議会議員の定数を定める条例」の改正が可決・成立した。これにより次回の市議選は、現行の定数28名がそのまま維持されることになった。その後の4年間で、議員定数の削減を前提して再度議論するという「付帯決議」はされたが、とても承服できるものではなかった。

真岡市議会議員の定数は、さきの合併協議会の中で「28名以内」と決定されている。これを受けて昨年9月から、各会派と当選期別の代表によって「議員定数等検討委員会」が行われてきた。私も2期議員の代表として参加していたのだが、幸いなことに、私以外の3名の同期議員も「定数削減は行わすべき」という考えでまとまっていたおかげで、委員会の中でプれることなく定数削減を訴えることはできた。また、最終日の議決に際し、2期議員のほか1期議員の中の3名が、現状維持に反対を表明したことも心強く感じた。

それにしても、今回の議論において、定数の現状維持を唱える議員が圧倒的に多かったことには、正直なところ戸惑いを覚えた。前の任期では「2名減か? 4名減か?」、全議員が削減を前提として議論をしていただけに尚更である。

現在の真岡市はこれまで以上に厳しい財政運営を強いられている。特に法人市民税については、平成22年度の見込みで約8億円。3年前の実績約32.5億円と比較すると1/4以下にまで落ち込むことになる。そうした中、より厳しい視線で執行部をチェックしなければならない議員が、自分達の痛みだけは回避するような態度でいいのか、どうしても疑問が残る。

議員定数、現状維持から感じたこと  
今後、市議会はどこへ進むべきか

無論、議員の数を減らせばいいというものではない。本格的な分権時代を迎えて、今後地方議会の役割は一層増していくものと思われる。しかし、8万3,000人の市に28名の議員というのは、データから見てもいささか多い。全国各市議会の平均に当てはめると、真岡市の議員定数は24.5人になるという。

今回の定数問題では、市民の皆様からも様々なご意見をいただいた。「現状維持」というものもあれば、削減すべきというご意見でも「2~4名減」から、最も多い削減数では「半減(14名減)」というものまであった。

しかし、仮に真岡市議会が定数を半減させたとしても、それだけで市民の信頼を得られるとは到底思えない。議員定数問題と併せて、議会制度そのものの改革にも着手しなければ、結局のところ「議会不要論」が出るまで、議員定数の問題を繰り返し議論し続けるようなことになるのではないだろうか。

ちなみに、栃木県内の市議会で「一般質問は再々質問まで」と議員自ら回数制限を設け、議論にブレーキをかけてしまっているのは真岡市議会だけである。これだけ見ても、今の議会制度でメスを入れるべき部分は山積していることが分かる。

北海道栗山町は全国初の「議会基本条例」制定を皮切りに、議会制度の改革を先進的に取り組んできたことで知られる。同町では「議員定数を増やすべき」「議員報酬を増やすべき」という声が、住民サイドから出るようになったという。議員が率先垂範を示せば、自ずと住民からの信頼は確保されるという事実を、我々議員はもっと真摯に受け止めなければならない。

## 中村かずひこと 未来をつくる会

中村のクリーンな政治活動を  
支える「中村かずひこと未来を  
つくる会」では個人献金に  
限り、カンパを受付けていま  
す。頂いたカンパは政治  
資金規正法にもとづいて適正  
に処理します。

※入会希望の方は  
中村までご連絡下さい。

(振り込み先)  
真岡信用組合本店  
普通口座 2099671

中村かずひこと未来をつくる会  
代表 中村和彦



## 中村かずひこ活動日誌

1 月	2 月	3 月
6日 賀詞交歓会	10日 真岡青年会議所例会	5日 文教常任委員会
9日 真岡市消防団出初式	11日 大谷地区防犯パトロール	栃木ブロックとちぎまちづくり委員会 (青年会議所)
11日 成人式	12日 「地方自治を学ぶ会」研修 (於: 小山市)	8日 あいさつボランティア
13日 真岡青年会議所総会	13日 真岡自然観察会役員会	9日 真岡青年会議所会員拡大交流委員会
14日 倉山満・国士館大学講師と面会	15日 あいさつボランティア 議会運営委員会	10日 真岡中学校卒業式 真岡青年会議所例会
16日 大谷地区防犯パトロール	16日 「ひばりの会」定例会	11日 東京財団主催研修会(於: 東京 日本財団本部)
18日 あいさつボランティア	ライブラリー教室作品展	12日 予算審査特別委員会通告書を提出
19日 「ひばりの会」定例会	17日 真岡市男女共同参画社会づくり市民会議	15日 あいさつボランティア
20日 真岡青年会議所会員拡大交流委員会	20日 大谷地区防犯パトロール	16日 議員協議会 予算審査特別委員会 議会運営委員会 真岡青年会議所会員拡大交流委員会
22日 議会だより編集委員会	22日 議員協議会 2月定例議会開会 一般質問の通告書を提出 議員定数等検討委員会	18日 議員協議会 2月定例議会閉会 議会だより編集委員会
23日 真岡自然観察会	23日 市役所担当課と接見	19日 中村東小学校卒業式
24日 大谷地区冬祭り	ノンケア体操指導員養成講座を見学	24日 合併1周年記念「市民のつどい」 真岡青年会議所例会
25日 あいさつボランティア	24日 真岡青年会議所例会	25日 1期・2期議員自主勉強会(足利市、日光市)
27日 真岡青年会議所会員拡大勉強会	28日 菅原文仁・戸田市議(埼玉県)市政報告会	27日 やまさわの里役員会
28日 「ひばりの会」小学校読み聞かせ (於: 真岡小学校)		28日 大谷地区総会
31日 映画「ゆずり葉」上映会		29日 真岡地区遺族会役員会
		31日 湯澤英之・鹿沼市議と面会
2 月	3 月	
1~ 会派視察研修	1日 あいさつボランティア	
3日 (徳島県阿南市、兵庫県小野市)	2日 質疑・一般質問1日目	
4日 真岡中学校立志式	3日 質疑・一般質問2日目	
5日 真岡市生涯学習推進市民会議	※この日、5人目として登壇	
6日 市民のつどい	4日 質疑・一般質問3日目	
8日 あいさつボランティア 議員協議会		